

「今の浜松市を憂う！」

——旅費のごまかし、基地強化、特攻隊賛美映画上映——

アクトシティがそびえ立ち、大学の建設工事も始まって、いかにも外見は立派になりそうにも見える浜松市であるが、その行政の実態はどうか？

一、まず、浜松基地の現況を見て下さい。米軍機六機が緊急着陸し、AWACSが配備され、パトリオットミサイル部隊が増強され、米空軍のマイケル大將が視察に来了。さらに、航空警戒司令部も浜松基地に来る。これで押しも押されぬ日本の航空自衛隊の中樞実戦司令基地となり、新ガイドラインによる「周辺事態法案」が成立すれば、浜松基地を米軍が自由に使うようになる可能性が十分。今や、浜松市は「軍事都市」化に向けて、ひた走りに走る。このままでは、もし戦争が始まれば、真っ先に浜松市が狙われて、また焼け野原に。

一、浜松基地の現況について、栗原市長は「国のやることだから」の一点張り。市民の生命や生活がどうなるうが「知らぬ顔」。市長を選んだのは市民だから、市民にも責任はあるが、「そんなはずではなかった！」と、みんな心の底で歯ざしりしていることであろう。

一、「音楽の町はままつ」という心よいキャッチフレーズも、爆音にかき消され、音楽振興課の元部長や、現課長が、出張旅費をごまかしてフトコロへ。それがバレて引責辞職。任命した市長に責任はないのか。腐り果てたる浜松市政よ！

一、八月十五日の敗戦記念日。浜松市主催の「戦没者追悼平和祈念式典」の案内状の中に、「特攻隊賛美」や「天皇奉祝」の映画チラシを同封し、「ぜひご鑑賞下さい」と六千名の人々に勧め、軍国主義鼓吹ともとれる言動を、市当局が行った。軍国主義の犠牲となった戦没者達は、戦争放棄と、軍備不保持を定めた平和憲法こそ、心から喜び、訴えていると思われるのに……。

精神的にも浜松市政は、危険度を増した。

○このように、浜松市政は怪しくなり、まじめな市民の税金が無駄に使用され、このままでは、個人の安全が脅かされ、戦争に巻き込まれていく危険も深まっていくなにか。

我々は、浜松市が、「市民のための行政」を行うことを願い、更に「平和憲法」を実現する市政に転換していくことを切望するものである。

一九九八年九月十三日（日）第三七九回・憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会

事務局 浜松市紺屋町三〇一〇十五